



棟方が疎開していた福光町と筆者の寺のある中田町（昭和34年発行）

飛鳥寛栗（あすか・かんりつ）  
大正4（1915）年7月富山県生まれ。  
龍谷大学文学部仏教学科卒業、浄土真宗本願寺派善興寺前住職、財団法人国際仏教文化協会顧問、仏教音楽コレクシオン・A主宰、東洋音楽学会会員、富山仏教学会会員。

# 飛鳥寛栗

桂書房



左は棟方志功（右と同行し、庄川峡に遊んだ帰り、湯谷温泉に寄った際の筆者（昭和21年）



9784905345398



1920095020006

ISBN978-4-905345-39-8  
C0095 ¥2000E

定価：本体2,000円+税  
発行：2013年4月10日

小社の本を書店（富山県外）でご注文いただく場合は「地方小出版流通センター扱いの本」とお申し込み下さい。なお、直接注文も承っておりますので、下記へご連絡下さい。

桂書房

〒930-0103 富山市北代3683-11  
TEL (076) 434-4600  
FAX (076) 434-4617



# 棟方志功・越中ものがたり

「私は富山では大きないただきものをしました。それは南無阿弥陀仏」(自伝)。福光町疎開の6年を超えて、棟方の模索と探究にかかわった中田町の真宗僧侶の懐古記。大作制作依頼から五箇山での「榮当」物語など13編。

第一話	「葦附行紀」ものがたり	1
第二話	だまし川 ものがたり	21
第三話	「御二河白道之柵」ものがたり	39
第四話	「善知鳥」ものがたり	51
第五話	似非念仏者 ものがたり	67
第六話	贗作 ものがたり	81
第七話	居留守 ものがたり	95
第八話	五箇山「榮当 榮当」ものがたり	107
第九話	又もや「榮当 榮当」ものがたり	125
第十話	目のやり場のない ものがたり	145
第十一話	晏山寮 ものがたり	163
第十二話	絵付け陶作 ものがたり	183
第十三話	華嚴 ものがたり	201

そえがき	奥野 達夫	214
思い出すまゝ	勝山 榮	217
あとがき	飛鳥 寛栗	219

(まえがき) より……福光時代から棟方さん没後も家族ぐるみで親交されている今、唯一人の棟方志功越中語り部といえる勝山榮さんよりお聞きした話、南砺市立福光美術館長奥野達夫氏より太い人脈により得られた情報や資料をおしげもなくご紹介頂いたことなどが引き金になりました。

しかし、私は「世界の棟方」として知られている棟方さんではなく、「ウレシクツテ アリガタクツテ アバレルヨ」を口癖にしていた棟方、強烈な情熱をもてあまして己れの芸業に苦闘し、その故に作品を悦楽しえた棟方志功の人間性に引かれて筆を取りました。

左は実物の98%



会場の真宗大谷派城端別院（善徳寺）大玄関前で。棟方志功、柳宗悦、濱田庄司（陶芸家）、バーナード・リーチ（陶芸家）の姿、右端は勝山榮（「第九・第十話」に登場）。下は右から棟方、リーチ、濱田庄司、柳宗悦



庄川を船便を利用して登ることになり、柳宗悦、濱田庄司、バーナード・リーチ、棟方夫

妻、そして土地の高坂貫昭、吉田龍象、笠原保寿、勝山榮、私も同行しました。

先、井波別院に詣で城郭構えの大伽藍、彫刻で有名な山門などを鑑賞して、庄川町より大牧



益子焼（善興寺蔵）

「天下一」でなく「二」というのはなぜ？